

学識経験者委員プレゼンテーションのまとめ

プレゼンテーション内容【要旨】	質疑内容【要旨】
<p>久保田 尚 副委員長 「30年後の練馬のランドデザインを考える ～交通～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来に向けて幹線道路をしっかりと整備することが重要。 ・幹線道路の整備が進むことで、道路空間をまちづくりに活用することも可能となる。 ・幹線道路以外の生活道路は、車の速度を抑制し、歩行者等が安全に通行できる空間へ。 ・整備された幹線道路に、きめ細かい公共交通を組み合わせることが必要。 ・今後、新しく普及する可能性がある乗り物は、超小型EVとフル電動自転車。 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿道の商店にとって人の移動速度は重要な要素。人々が安全に通行できる道路空間は商業の発展に繋がる。 ・交通の戦略として、きめ細かな公共交通の整備と新しいパーソナルな乗り物の活用の2つの方向性あり。 ・健康寿命の観点では、自立的に走る自転車に乗り続けられることが大事。
<p>村木 美貴 委員 「低炭素型都市づくりを練馬区でいかに実践するか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練馬区のような住宅都市では、エネルギー需要の平準化と有効利用の観点から、可能性があるのは駅周辺等の拠点。まちづくりとエネルギーシステムの連動が取組みを推進するための鍵となる。 ・住宅市街地では、防災、安全・安心などの視点でのアピール方法もあり。 ・拠点に限定せず、蓄電池の活用など、地域の需要や特性に応じた選択肢も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低炭素型都市への戦略として、拠点エリアと住宅地のコミュニティベースの取組みに可能性あり。 ・練馬区ではみどりや農地の維持も重要な命題で、低炭素型まちづくりにおけるみどりや農地の役割も視点として必要。 ・災害時の備えとして何が必要かを考えるべき。
<p>今井 伸 委員 「助け合いの地域社会を構築するために(30年後を見据えて)」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人の平均寿命および定住傾向を踏まえて30年後を分析すると、高齢化における地域的な格差が見込まれる。 ・施設配置的には、小地域(人口1万人程度)ごとに相談拠点を配置することが可能。 ・横断的な相談機能をどのように充実するかが福祉の視点での一つの課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の領域外である子育て・高齢者支援施設の整備では、空間政策として捉え直してアプローチすべき。 ・高齢者の相談を行政につなげる役割を商店会が担うことも考えられる。 ・商店街を魅力的にするために、高齢者との関わりを考えることが重要。
<p>横田 樹広 委員 「緑の恵みと景観から考える練馬区の30年後」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農・住混在している区の魅力のみどりの量だけでなく質として感じてもらうことが重要。新しくできたみどりを、地域の機能として位置づけていくことが重要。 ・農の風景育成地区などの農の保全・活用を検討していくことが必要。 ・徒歩圏にネットワークを構築することが必要。地域の特色を踏まえ、みどりの「恵み」を指標にして、みどりを適切に配置することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系を広域的な視点で考え、緑地の特性付けや居住のあり方と共にネットワークとして捉えるべき。 ・生態系サービスは「恵み」であり、「受益者」があって成立。みどりが豊かでも、その「恵み」を得られなければ存在するだけとなる。
<p>瀬田 史彦 委員 「高齢化・人口減少社会の都市計画～地域単位と拠点の設定に注目して～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化・人口減少の下では、地域単位で都市計画・都市空間をどう設定するかが重要。 ・地域単位での拠点の設定が非常に重要。公共施設の再編はインフラや市街地の再編よりも先に進み、大きい拠点に集約される動きとなる。 ・光が丘地区、生産緑地がある地区など、若年層を迎え入れる対策も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって高齢化の度合いが異なると、全体として高齢化の格差が広がる。 ・都市計画的には拠点を選り、そこを中心として密度を最適化することが重要。 ・練馬区では、少し遠い将来を見据えて都市計画を考え、みどりや都市基盤の整備とともに、区内に練馬程度の拠点をあといくつか形成するのが望ましい。
<p>小泉 秀樹 委員 「練馬の未来と都市計画のコレカラ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の結果、地域で暮らす人が相対的に増える社会となる。 ・公共交通の将来的な発展を考えると都心周辺の住宅都市として性能の追求が重要。 ・外環の2を含む幹線道路は、パブリックライフの舞台とする発想やグリーンインフラストラクチャーとして沿道の地域づくりと一体的に整備する発想が重要。 ・都市空間活用による小さな拠点を繋ぎあわせてエリア全体を再生する方策が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地の縮退の流れの中では、住宅地の在り方そのものが重要との視点は、練馬区に相応しいと考える。 ・近隣住区論は今も合理性があり、この範囲で住宅地の独自性を探れるかが挑戦。 ・練馬区では、地域毎のまちづくりを30年続けることで、他の地域と質の違う住宅市街地を形成できる可能性をもつ。